

## 作物生産学特論演習 II (2単位)

担当者氏名 近藤勝彦・本橋強・丹羽克昌

### ◆学習・教育目標

作物生産学特論演習 II では作物生産学特論 II をふまえ、海外論文の文献紹介、ディスカッション、技術習得およびプレゼンテーション等を実施することにより、修士論文に対する研究課題の意義・位置づけ、研究のアプローチ法（研究の理論、技術の習得）、論文作成法（日本語および英語での文章表現）ならびにプレゼンテーション法（学会発表）などについて理解・習得させることを目的とする。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

遺伝学 \_\_\_\_\_ 育種学 \_\_\_\_\_ 遺伝子工学 \_\_\_\_\_ ゲノム工学 \_\_\_\_\_  
 染色体工学 \_\_\_\_\_ 分子細胞遺伝学 \_\_\_\_\_ 植物組織培養 \_\_\_\_\_

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	海外文献紹介 (第1~4週)	・海外文献を主とした論文紹介を行い、ディスカッションする。	・研究分野の論文収集とその理解に努めさせる。
2	研究のアプローチ法 (1) (第5~6週)	・研究で用いられる実験の理論を理解させると共に、技術的指導をする。	・研究理論・手法をきちんと把握する。
3	論文作成法 (第7~13週)	・修士論文作成に当たり論文作成法・文章表現を指導する。	・修士論文を作成する。
4	プレゼンテーション法 (2) (第14~15週)	・研究成果を発表させる。	・研究成果を発表し、検討を加える。

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

遺伝・育種学、分子生物学に関わる専門書を通読すること

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

必要に応じて紹介する

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

出席および質疑応答、ディスカッションなどで総合的に行う。

### ◆その他受講上の注意事項

研究成果についてのディスカッションを密に行うので、積極的に取り組んで欲しい。